ウクライナ軍のネオナチ記章をその起源から切り離すことはできない

https://sputnikglobe.com/20230607/neo-nazi-symbols-on-ukrainian-troops-cannot-be-divorced-from-their-origin-1110985378.html

Sputnik International/ Fantine Gardinier
June 8, 2023

月曜日のニューヨーク・タイムズ記事は、西側メディアが過去一年、無視しようとしてきたことを大きく取り上げた。それはウクライナ軍のネオナチの存在と、ナチのシンボルが盛んに使われている問題で、SS（ナチス親衛隊）の使った「どくろ」の記章や、ナチスや彼らのイデオロギーの同調者たちがよく使った「黒い太陽」も含んでいる。

しかし NY タイムズは、このシンボルを使うことをなるべく避け、それがもつファシストの意味はなくなったかのように言い、ウクライナの伝統的な、独特の国家主義のシンボルであるような見方を繰り返している。

Jeremy Kuzmarov は、アメリカの外交政策に関する密かな活動の、雑誌や著書の編集経営者だが、彼は水曜日、ラジオ・スプートニクで、このシンボルを隠そうとし、またそれを弄ぶ者たちがあるにもかかわらず、このようなシンボリズムを、ヨーロッパのファシストやナチや反ユダヤ主義にかかわる重要な意味から、切り離すことはできないと論じた。

「道徳的暴力」

クズマロフは、この動向をプロパガンダと呼び、メディアの連中は、「これがウクライナに悪いイメージを与え、戦争の努力を台無しになることを憂慮しているが、**それが現実のナチスである**ことを気にしていない、…私が読む限り、それは完全な偽装的ごまかしだ」と彼は言った。

クズマロフは、これでは若いウクライナの兵士の「ナイーブな」者たちが、これらナチスの記章を軍服に縫い付けて、その深い歴史を知らずに、単なるウクライナ・ナショナリズムのしるしだと考えるかもしれない、と言った。

> 「その旗印はリーダーシップと組織を表している。だからそれは、ナチスのイデオロギーを表わすものだ。そして、それこそウクライナのナショナリズムで、それはファシストやナチ協力者や反ユダヤ主義の歴史から、切り離せないものだと私は思う。だからそれは醜いナショナリズムだ。私の言うのは、ナショナリズムは非常に醜い性格を持ち、過激になり得るということだ。これがその明らかなケースだと思う。いったい、アメリカのような外国やその市民が、これほどナチスに支配され、これほど道徳的暴力である、ファシストに傾いたナショナリスト運動を、支持しなければならぬ理由は全くない。これに対する抗議がなぜ、もっと起こらないか悲しいことだ。」

キエフに武器を与えるため「拷問を正当化」

彼はこの同じ NY タイムズに注目し、経済学者の Paul Krugman が署名入り記事で、現在のアメリカのウクライナ支持は、79 年前の同じ日に起こった 1944 年 6 月の、ナチスに占領されたフランスの「D デー」のようなものだ、と言っているという。

> 「そしてこのリベラルの指導者ポール・クルーグマン――これは啓蒙的経済学者ということになっている人物だが――ウクライナの戦争を弁護し、それを疑問に思う左右の人々を攻撃しているのだ」と、クズマンは言う。「しかし何と、次のページでは、この軍隊はファシストに支配されており、こうしたシンボルは基本的に、嫌悪すべき拷問の正当化だと言っているのだ。だからこれは本当に矛盾した話だ」と彼は言った。

ジャーナリスト、クズマロフは、現状は全く**「完全に逆さなのだ」**と言う。

> 「アメリカは第二次大戦でナチズムと戦った。そして今、彼らは公然とナチズムの側に立っている。そしてこれが、**何か偉大な道徳的運動（great moral crusade）であるかのように**言っている」と彼は言った。

ジャーナリズム、それともプロパガンダ？

クズマロフは、メディアはNYタイムズを含めて、ジャーナリズムとプロパガンダの区別をしないことによって「事情を歪曲し」、**ウクライナの兵士たちに、写真を撮る前にネオナチの記章を取り外すように求めている、**と言っている。

> 「彼らはナチとの関係を目立たないようにしており、これは前に我々が論じた問題に関連する：――ステファン・バンデラ（寄り）の輩は、ウクライナのナショナリスト運動をいわばハイジャックして、ロシアやロシア支持者と協力する者たちに反対するように、ウクライナ・ナショナリスト運動をリードしてきた。だからそれは一般大衆に、非常に間違った印象を与えている。しかし私はその写真は取らない。なぜなら、こうした兵士たちが並んでいるのは事実だからだ――彼らはワッペンを身に着けている、彼らはナチス支持者であり、バンデラ党であり、あの退嬰的な、ウクライナ・ナショナリストの伝統につながる者たちである。だからもし、彼らが他の者たちにそれはやめよと言うときは、彼はウクライナ軍のイメージを保護しようとしており、それは安売りを狙っている。なぜならそれは戦争政策に巻き込むからだ。」

クズマロフは、NYタイムズ自身が言っているように、2022年2月のウクライナの特別軍事作戦の理由の一つは、この国からナチスをなくすることで、それはこのグループが何年もの間、暴力によって、ウクライナのロシア系人民を迫害し、殺し続けてきたからである。それは自立してロシア語を話す、ドンバス地域に対する、8 年間の戦争を含んでいる。ウクライナ軍の仲間に、このようなシンボルを増殖させることは、西側の目には、こうした主張に「ある程度の合法性を与える」ことになり、「これは許せない」ということになった。

アメリカは長い間、ナチ協力者を支援してきた

第二次大戦の最終段階で、アメリカは大慌てで、ソ連や、ソビエト各地から解放されたヨーロッパの一部からの、**ナチ協力者たちと**の接触を推進し、そのほとんどはウクライナで行われた。戦争後、新しく創られたCIAが、ウクライナでの反乱を支援し、それは1955年代半ばに制圧されるときまでに、この部局自身の推定で、**3万5000人以上の死者**を出した。

> 「これらのプログラムは、〈ロールバック作戦〉のもとに、アメリカとCIAによって支援された。彼らは実はナチスを募集していた。ラインハルト・ゲーレンがナチスのスパイ主任で、彼はソビエト情報に精通していた。彼はこれらのネットワークの代理

として、CIA のスパイを使い、冷戦初期の二次大戦直後には、CIA が、親ロシアの者たちに対するこれらのテロリストや攻撃の、背後にあった。」

「基本的に、これが我々が、再び見ているものなのだ。すなわち、アメリカの CIA がネオナチのネットワークを動員して、ロシア人を襲わせている。戦っている多くの前線は、これらの軍団によって実行され、その多くは、公然とあの記章を身に着けているのだ」とクズマロフは言った。

「これが、このグループの系譜だ。そして彼らは、かなり公然と、ファシストの様相を見せていると私は思う。**そして彼らはロシア人を憎んでいる**。彼らはロシア人を、なるべくたくさん殺したいと思っている。彼らはウェブサイトを持っているが、そこには彼らの殺すロシア人の、ゾッとする写真が出ている。彼らはそれを誇りにしている。そしてそのウェブサイトは、CIA の援助によるものかもしれない。彼らはこの種の振舞いを、第二次大戦後ずっと奨励している。実に悲痛な有様が続いている。」

［訳者 Greatchain 注］

ウクライナ軍によるあのダム破壊を、この時点でまだ、ウソだろうと言う人がいるだろうか？　これは主流メディアでさえ、涙を呑んで？ロシア犯行説を引っ込めたのだから、これを認めているのであろう。

しかし、そこから話は収集がつかなくなる。いったいアメリカによるプロパガンダというものが、どれくらいの威力をもって、この惑星を征服し、どれくらい見事に我々を丸め込んだのだろうか？　それは途方もない規模で行われている。先日引用された、劇作家ハロルド・ピンターの言うように：――「それは現に起こっていても、起こっていないのだ。」ワクチンもそれと同じで、目の前で人が死んでも死んでいないのだ。
https://www.dcsociety.org/2012/info2012/230530.pdf

そういう見方で、このアメリカ-ウクライナ-ロシア小史を読んでいただきたい。この三つ巴の関係は、第二次大戦が終わった直後から、ナチスを利用するアメリカの奸計を通じて始まり、基本的に同じ形で今に至っていることがわかる。もし我々が騙されて、この奸計に気づかなければ、アメリカのやることはすべて正しく、逆にロシアの行動はすべて狡猾であり犯罪に見える。ロシアが何を言おうと、それは**彼らの**薄汚いやり方から出たもので、信用できるものではない――これが現在の、NHK を含めた我々のメディア全体の立場である。

この文章で特に 2 か所だけポイントをあげようと思う。1 つは「**現在の状況は、まったく完全に逆さなのだ**」（p. 2）という指摘で、これはおそらく我々全員の感覚である。何がどうしてということではない。もう 1 つは、そのすぐ下の、それはまるで「**何か偉大な道徳的運動であるかのようだ**」というところである。

プロパガンダとジャーナリズム――真理と正義の追及、間違うかもしれない――が、これだけ見事に転倒していては、人は自信が持てなくなり、真理や正義を求めていても、自分は何か間違った、恥ずかしいことをしているのではないかと、思うことがある。プロパガンダの側が「道徳」に訴えるということ――これは恐ろしいことである。しかしそれが今起こっている。